

令和3年度 学校経営報告

都立青山高等学校長 小澤 哲郎

1 3年度の取組目標と方策

(1) 学校経営
ア 組織 (ア) 教育職員 全教職員が学校経営に参画するとともに、企画調整会議が中心となって課題の解決に当たる。 ・Webアンケート、学校ホームページ、公式Twitter等を活用し、エビデンスを重視した学校経営 ・学習から生活、特別活動等までにおける生徒・保護者に係る情報の迅速な共有 ・自己申告に学校経営計画の具現化のための目標設定 ・体罰や個人情報漏えい等の服務事故の防止 ・企画調整会議の活性化、各教科との連携が必要な局面で企画調整会議に教科主任が参加・担当部署に関らず、学校行事等の運営への積極的協力 ・校内研修、進路職員会議等による教育課題の共有化 ・教育改革を見据えた教育課題の解決 ・ITによる業務の効率化（在宅でのオンライン授業、学校ポータルサイトによる保護者への迅速な情報提供と共有）による職員の負担軽減と在校時間の可視化によるライフワークバランスの重視 (イ) 行政職員 課題ごとに、管理職と一体となってPT方式によりその解決に当たる。 ・固定観念や前例にとらわれない柔軟な発想に基づく学校経営を行う ・適正な予算編成・執行と財務管理の徹底 ・施設・設備の安全維持に要する業務の着実な推進 ・進路部、広報部、生徒部の多様な業務を財務面から支援 ・ITによる業務の効率化（学校ポータルサイトによる保護者等への迅速な情報提供と共有、紙資源の節約による印刷労力と経費の削減）による職員の負担軽減とライフワークバランスの重視
イ 施設・設備組織 施設・設備の安全確認・点検等を定期的に行うとともに、改修改善を要する施設・設備については増改修要望を利用して学校経営支援センター、都立学校教育部と連携して安全な教育環境の維持改善を図る。 ・暑さ対策のため普通教室・体育館・屋上プール等の窓の遮光フィルム貼付の範囲拡大 ・自習室や廊下ラウンジの学習環境の整備 ・小会議室の設置（被服室の一部） ・トイレ洋式化の完了 ・男子・女子更衣室、トレーニングルーム、柔道場、剣道場の改修及びプール照明のLED化 ・グラウンド、テニスコート防球ネットの整備 ・テニスコート人工芝の修繕
(2) 学習指導・進路指導
ア 学習指導等 教員の専門性の向上と、国公立大学進学に対応した学習指導の展開を目指す。 ・大学入試改革を見据えた自校作成問題の継続、校内学力テスト、定期考査の改善

<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業期間中の講習を生徒の進路希望別の内容で実施 ・管理職が指定した教員の授業見学の実施、指導教諭による授業公開の活用、特別講習等の継続 ・英語教育推進校としての取組、ICT機器等を活用した新たな学習指導 ・オリンピック・パラリンピック教育の推進、不読率の低減等、喫緊の教育課題に対応した学習指導 ・オンライン英会話学習の継続、Tokyo Global Gateway（英語村）の活用
<p>イ 進路指導</p> <p>「進学指導」重点校としての役割を教職員が認識し、将来の社会貢献を見据えた指導をとおして、真に学びたい、学ぶべきことを発見させ、その学びを深めるために真に適した分野（学部学科）と大学を志望するよう「進学指導」を行っていく。進路部と各学年が連携して計画的に進路指導を行うとともに、生徒一人一人の実態を教職員全員で把握し、各教科等での適切な指導を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト、及び二次試験を想定した校内学力テスト・定期考査の実施と分析 ・進路職員会議、ケース会議、進路研修会等を定期的に開催 ・長期休業期間中の講習を生徒の進路希望別の内容で実施 ・各学年等を対象とした文化講演等の実施 ・望ましい勤労観・職業観を育むキャリア教育の実施
<p>(3) 生徒の健全育成と心身の健康</p>
<p>ア 健全育成</p> <p>教育活動の全般をとおして、公共心や道徳心、規範意識や社会貢献の意識を育むとともに、他者を思い遣る人間性を醸成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ指導等の実施 ・美化活動等の実施 ・社会性の涵養に資する講話や指導の実施 ・いじめ防止対策の実施 ・自主自律の精神と民主主義を尊ぶ生徒会活動の指導 ・異校種の児童・生徒との交流活動 ・海外の生徒との交流 <p>イ 心身の健康</p> <p>学校保健計画に基づき、生徒の心身の健康づくりに資する取組を推進するとともに、個々の生徒に応じた指導・支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育推進委員会の定例化 ・カウンセリングや相談体制の強化 ・合理的配慮や支援を必要とする生徒への支援 ・スクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーターを活用した相談体制の強化 ・例年深刻化する拒食生徒のケアと保護者の啓発
<p>(4) 特別活動</p>
<p>ア 行事等</p> <p>学校行事のねらいを達成し、文化・芸術・運動等に生涯にわたり親しむ素地を培う。また、ホームルーム活動のねらいを達成するために、年間指導計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に結びつく立志のための文化講演の実施 ・文化・芸術に親しむ行事の実施 ・防災に係る活動に親しむ行事の実施 ・体育活動に親しむ行事の実施

<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動に親しむ行事の実施 ・進路実現に向けた意識の高揚 ・校内ビブリオバトルの継続実施 ・Tokyo Global Gateway（英語村）を活用した英語体験学習の検討
<p>イ 部活動</p> <p>部活動への加入を奨励し、文化活動や体育活動をとおして、生涯にわたり健康で文化的な生活を送るための基礎を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率 95%以上 ・公的発表会等や外部指導員等の配置に必要な予算措置 ・事故等の未然防止と万一の場合の適切かつ迅速な対応の徹底 ・顧問教諭や関係教諭、スクールカウンセラー等による面談等の実施 ・地域の小中学校、特別支援学校との部活動をとおしての生徒同士の交流活動の展開
<p>(5) 地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック教育等をテーマに、地域の外国大使館等と英語による講演等の文化活動や交流活動の展開 ・地域の特別支援学校との障害者スポーツをとおしての交流活動の展開 ・祭礼等の地域行事への参加や地域の清掃活動などの実施 ・地域や地域の企業、関係機関と連携した宿泊防災訓練の実施会活動の充実 ・港区立青山小学校・港区立青山中学校・東京都立青山特別支援学校との連携 ・近隣団体等との連携の強化
<p>(6) 広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを通じて、行事や部活動等の教育活動の情報発信を毎月更新 ・学校説明会、学校見学会、放課後の個別相談会、入試問題解説会等を年 8 回以上開催 ・近隣中学校等への出前広報活動の展開 ・中学生対象の体験授業（サマースクール）の実施 ・塾等への出前広報活動 ・Twitter による情報発信を年 500 回、フォロワー累計 2,000 達成 ・YouTube 青高チャンネルの開設と動画による学校紹介・部活動紹介

2 成果と課題

<p>(1) 学校経営</p> <p><成果></p> <p>ア 組織</p> <p>(ア) 教育職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画調整会議を中心として学校経営上の課題解決に取り組むことができた。また、各教科との連携が必要な局面で企画調整会議に教科主任が参加することで、情報共有を円滑に行えた。 ・学校ポータルサイトの試行により、劇的な業務縮減を実現できた。同時に、紙資源の節約も 2 四半期で 50 万円程度実現できた。学習から生活、特別活動等までにおける生徒・保護者に係る情報を共有し、迅速に課題に対応することはほぼ達成できたが、対応に大幅な労力を要する事案もあった。 <p>(イ) 行政職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館棟、男女更衣室、トレーニングルーム、剣道場、柔道場、プールの天井窓の改修工事を完了し、教育環境整備など進学実績の向上に資する企画提案などを行い、学校経営に参画することができた。

・生徒の就学支援金等の需給状況、教職員の在校時間等の集計、施設設備の改善状況の三つの特命業務を、3人の主事に継続して分担させ、データを公表することにより、業務改善に直接結びつけるとともに、3人の主事の説明資料作成能力の向上を一定程度実現できた。

・積立金や部費等の私費の適正な管理を行うことができた。

イ 施設・設備組織

・安全確認・点検等を定期的に行うとともに、改修改善を要する施設・設備について、所管の学校経営支援センターとの連絡・調整を行い、自習室の学習環境の充実、トイレ改修の推進、体育館付属設備の改修、校内電話の入れ替え、粗大ごみの撤去等教育環境の整備を図ることができた。

<課題>

ア ・学校経営方針を踏まえ、教育活動の一層の成果を上げるために、進学実績向上に資する専門性の一層の向上に努める。

・次期学習指導要領を見据えたグランドデザインの策定を踏まえ、新カリキュラムの策定を完了することができた。一方で、総合的な探究の時間については、従前の総合的な学習の時間から脱皮することができず、今後3年間で本来実施ができるようにするため、当面、外苑地域の諸団体と連携した探究活動をHR活動の時間に実施して、知見を積み重ねていく。

・個々の生徒に応じた学習指導や相談の展開が、一定程度できた。エビデンスからは、ホームルーム活動や面談の実施の成果の課題は減少している。

イ ・昨年度、法務監察課による業務監査において、指摘事項2件、注意事項3件の計5件の指摘をうけるに至った。主事3人が全員新採で、年度ごとに新しい業務を担当させているため、誤った事務処理が正されないまま、放置されていたことが原因であった。電子決裁にも消極的で、昨年度11月期には、電子決済率16%台と、都立高校で最下位になってしまった。新たに着任した経営企画室長と改善計画を立て、事務処理の適正化を図るとともに、電子決裁100%を目指して取り組んだ結果、業務監査の指摘は解消でき、電子決裁率も90%以上に改善することができた。

・新採を1年ごとに担当業務を変える育成の仕方に課題があることから、令和4年度の配置については、中堅職員の配置を要望するとともに、担当業務を2年連続にする方針に転換することとした。

・グラウンド整備が進んでいないので、人工芝生化と外構整備に取り組んでいく。

・冷温水発生器による空調が十分に機能しなくなったことから、新たに4階以下の全教室に個別空調装置を設置するよう要望することとした。

・感染症予防のため、水道の水栓をコック式、または、センサー式に取り換えることができるよう、教育庁への要望を行う。また、サーキュレーターやCO2測定器の維持管理を適切に行うことが課題である。

・トイレの悪臭の根本的な改善策がなく、排水溝の溜水の水位を維持するメンテナンスで対応することとした。

(2) 学習指導・進路指導

<成果>

ア 学習指導等

- ・年間指導計画の改善を行い、単元ごとの到達目標を設定、教科会での進捗状況の確認・調整も行った。
- ・Webアンケートを活用した生徒による授業評価を年2回実施し、その結果を公表して、教員が指導の工夫・改善を図った。
- ・校長が指名する教員の相互授業見学を年2回実施するとともに、アクティブラーニングの公開授業を実施し、授業改善を図った。
- ・英語教育推進校として、オンライン英会話を7回、今年度は1、2年生による、Tokyo Global Gateway（英語村）の活用などを行い、実践的な英語力の一層の向上に取り組んだ。その結果GTECのスコアは年々伸びている。3年生は、50名以上が実用英語検定準1級を取得。
- ・オンライン授業、オンライン講習、オンライン式典など、ICTの活用を取り入れることができ、いわば、ピンチをチャンスに変えることができた。令和2年度に策定した「青山高校における教育活動のICT化推進の基本方針」に基づき、令和3年度から、一人1台端末の先行導入を行った。オンライン授業の実施に加え、BYODによる授業での活用を開始することができ、令和4年度の全校での導入に際して、あらかじめ知見を積むことができた。
- ・デジタルサポーターの活用により、緊急事態宣言中やまん延防止等重点措置期間中のオンライン授業を円滑に実施することができた。時間割の編成についても、回線に負荷がかからないよう、特別時間割を編成して1週間単位で学年別に実施することや、全校で平常時間割どおりに科目別に実施することを試行し、知見を積み重ねることができた。どのような事態になっても、即応できる体制が確立できた。ただし、保護者や生徒から要望の強い、双方向型のオンライン授業については、回線への負荷が高いため、teamsでの実施はできない状況である。教科の特性に応じて、双方向型の必要性が高い英語については、学校が独自に契約を結んでいるZoomでの実施を行って対応した。

イ 進路指導

- ・東京大学現役合格者を5名、一橋大学9名、東京工業大学2名、医学部医学科2名、難関国公立大学現役合格者を18名輩出し、進学指導重点校としての教育委員会の目標を達成することができた。国公立の医学部合格者を3年連続で出せたことは大きな成果である。一方、コロナ禍による地方大学敬遠の影響は顕著で、旧帝大への合格者はほぼ皆無に等しく、学校経営計画に目標として位置付けた40名の大台には遠く及ばなかった。
- ・3年生全員の共通テスト受験を実現できた。国公立大学受検者数を100名の大台に乗せることができた。国公立大学現役合格者を79名輩出し、昨年度に続き、進学実績の向上を図ることができた。
- ・進路全体計画を策定し、校内学力テスト・外部模試・講習補習や面談等着実な実施を図った。特に、校内学力テストや定期考査においては、大学入学共通テストを見据えた新傾向の問題、思考力・判断力・表現力を問う記述式の問題、初見の問題を、主要教科で実現することができた。同時に、教員の指導力の向上（作問力は指導力）につなげることができた。一方、多忙感から、記述式問題を十分に出题できていない科目（教員）も散見され、したがって、評価規準や評価の観点が十分に確立できていない科目（教員）が一部にあることが課題である。
- ・進路職員会議を年6回実施し、模擬試験の分析や個に応じた指導方針を検討した。
- ・模擬試験の結果を踏まえ、生徒の苦手とする分野を把握した指導の重点化を図るとともに、校長が生徒を激励する訓話を行うなどして生徒の学習意欲を高めた。

<課題>

ア 学習指導等

- ・教職員が受験指導と「進学指導」の違いを十分に認識しているとは言えない状況にある。真の進学指導重点校としての地位を固めるには、「進学指導」の意味を認識し、学校経営計画に基づいて日々実践していくようにベクトルを一方向に集中させていくことが課題である。
- ・高等学校学習指導要領及び高大接続改革に対応したカリキュラムを策定することができた。今後は、文理別や必修修・選択履修等を想定した、実際の時間割の策定に必要な調整や運用の仕方を検討していく。
- ・授業改善と個々の生徒に対応した補習・講習の一層の充実
- ・IT化した授業評価の結果を分析し、成果の挙がっている指導方法等を教科・学年で共有

イ 進路指導

- ・進学指導重点校としてのミッションや学校経営計画に沿わない進路指導を行っている担任が散見される。保護者や生徒のクレームに気圧されて、私学への指定校推薦を勧めたり、生徒が3年生になって急に国公立を勧めたりするなど、生徒や保護者の信頼を得られていない教員が一部にいたことが課題である。
- ・他県の進学校と肩を並べるためには、校内学力テストの精度向上が必須であり、未だ道半ばであるが、その意欲に欠ける教員が散見される。模擬試験の合格判定のみに頼り、安易な進路指導を行う教員もいるなど、校内学力テストの信頼度を高めるまでの間、組織的な進路指導を行えるよう、トップダウンの指導に一層力を入れていくことが課題である。
- ・合格大学別の校内学力テスト・定期考査の分析
- ・長期休業期間中の講習を生徒の進路希望別の内容で実施
- ・受験指導と進学指導の違いを明確に意識した生徒指導が行えるよう、教職員への研修と目的意識の共有を図っていく。

(3) 生徒の健全育成と心身の健康

<成果>

- ・校長の朝の立哨指導をはじめ、教員が挨拶指導を率先垂範し、礼節指導の充実を図った。生徒の心身の健康状態、出席の状況を把握するために欠かせない、重要な指導であることを、教職員にさらに強く意識させることで、一層の成果向上を図れるものとする。
- ・Webアンケートによるいじめ等に関する調査を年3回実施し、未然防止・早期発見に努め、自他の生命や人権を尊重する豊かな心や態度の育成を図ることができた。令和4年度は、学校マネジメント強化事業による副校長支援員や、進学指導重点校加配の1名減の代わりに配置されることになった進学情報専門員の業務として位置付け、エビデンスに基づく教育活動を支える重要な作業を確実に担保できるようにすることが課題である。
- ・保健室の健康指導やケアは、大きく改善し、学校評価の結果もそれを反映するものとなった。コロナ対策、その他の感染症対策も万全に行うことができた。教育活動への負の影響を最小限に抑えることができた。また、拒食症生徒への対応は、関係機関や関係部署と連携・調整を密に行い、対応に消極的な教員やSCにも役割を担わせるなど、組織的運営にも大きく貢献した。
- ・スクールカウンセラーを活用したいじめ対策委員会や青山特別支援学校からのコーディネーターと連携した特別支援委員会を開催し、支援を必要とする生徒の情報を管理・共有し、指導・育成に役立て、継続的に生徒・保護者を支援した。

<課題>

- ・健康診断の電子化に向けて、実務的な準備を進めていくことが今後の課題である。
- ・SCの交代に伴い、特に、本校に特徴的な事案への対応が十分に行えなかったことが最大の課

<p>題である。また、カウンセラー通信なども、生徒の健全育成と心身の健康の実現に課題が残った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の一層の定着 ・ 生徒の心身の健康の増進 ・ 相談体制の一層の充実と生徒情報の共有 ・ 欠席の多い生徒へのスクールカウンセラー等を活用したメンタルケアの一層の支援
<p>(4) 特別活動</p>
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の加入率は、7月、12月の両時点で95%と、多くの生徒が部活動に熱心に取り組んだ。 ・ 青山フィルハーモニー管弦楽団は文化部推進校として活躍（定期演奏会は中止となったが、杉並公会堂で、生徒、OBのみで公開練習を実施、都立青山特別支援学校との交流を動画により実施）Tokyo そうぶん祭 2022 の実施に向けて、ボランティア生徒が実行委員会に参加。また、教員1名を総合文化祭専門官（音楽）として派遣した。 ・ 体育祭は学年別に実施。外苑祭は、無観客で実施。 ・ 生徒に幅広い見識や教養を身に付けさせるため、各学年を対象に文化講演を開催した。特に、全学年を対象に、池上彰氏による「ソ連崩壊後の東欧諸国」と題する特別授業を6時間実施できたことは大きな成果であった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都大会等における実績の向上 ・ 怪我の未然防止策の徹底や事故が起きた際の迅速かつ適切な対応
<p>(5) 地域貢献</p>
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熊野神社祭礼、ボッサ青山、青山祭り等の地域連携活動は、残念ながらコロナ禍のためすべて中止になったが、地元の日本オラクル社と連携協定を締結し、1年生の希望者7名を対象に通年でキャリア・メンタリング・プログラムを実施するとともに、1年生全員を対象に、青山地区の課題をSDGsの視点で解決を図る」というテーマで大規模な探究活動を実施できたことは大きな成果であった。 ・ 地元の小学校での「絵本読み聞かせ」、地元の特別支援学校との「音楽交流会」については、動画配信や手作り楽器の寄贈により、新しい形で実施することができた。地元の中学校とは、参加人数を絞り、感染症予防対策を講じたうえで、例年どおり、体験授業を実施することができた。こうした交流をとおして積極的に社会に参加・貢献しようとする態度や共生社会への参加意欲を育成することができた。 ・ オリンピック・パラリンピック2020東京大会を控え、ストリート装飾を港区立青山小学校・港区立青山中学校・東京都立青山特別支援学校と連携して、継続実施とした。 ・ 地域の諸団体（日本青年館、TEPIA、明治神宮外苑、日本スポーツ振興センター、霞ヶ丘自治会等、青山商店会、神宮前二丁目商店会、日本オラクル）との連携協定を継続・新規で締結し、今後の連携強化の道筋をつけることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本オラクル社との連携による探究活動を継続し、3年後には、総合的な探究時間を学習指導要領の趣旨に最も合致する形に改善していくことが課題である。 ・ コロナ禍のために十分な実施ができていない、地域の外国大使館と連携したパートナーシップ

校等の形態による海外の高等学校との緩やかな推進事業（ニュージーランド ハットバレー・ハイスクールとの連携協定を締結済）の推進が今後の課題である。
(6) 広報活動
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会、入試問題解説会、放課後の個別説明会等を開催し、広報活動の充実を図った。 ・ホームページやTwitter、YouTube「青高チャンネル」等を活用して、教育活動の特色等を発信した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校案内DVDの廃止や過去問題集等の広報予算の効率化及び縮減 ・デジタルサイネージを活用した広報活動の一層の充実

3 今年度の数値目標

		数値目標	3年度実績
1	難関国立大・国公立医大現役合格者	25人	18人
2	難関国立大学（旧帝大含む）現役合格者	40人	23人
3	国公立大学現役合格者	110人	79人
4	難関私立大学(早慶上理)現役合格者	延べ180人	実67人(延べ227人)
5	外苑祭来校者	実施そのもの	実施、無観客
6	学校説明会参加者(年3回)	実施そのもの	実施、1,500人
7	学校紹介動画再生回数	6,000回	11,226回
8	学校説明動画	年度途中から目標に設定	1,751回
9	入試問題解説動画再生回数	4,000回	3,651回
10	部活動紹介動画	2,000回	1,525回
11	ホームページ更新回数	300回程度	250回程度
12	Twitter 発信回数	500回	485回
13	Twitter フォロワー数	2,000超	2,255